

「A」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 一の人の御有様はさらなり、ただ人も、舍人など賜はるきはは、ゆゆしと見ゆ。（徒然草）

（訳）摂政関白のご様子は言うまでもなく、「」も、護衛の者を（朝廷から）いただく身分の人は、すばらしいと思われる。

- ①庶民 ②普通の貴族 ③上位の貴族 ④臣下

2 伊勢の君の、弘徽殿の壁に書き付けたうべりし歌こそは、そのかみに、あはれなることと人の申ししか。（大鏡）

（訳）伊勢の君が、弘徽殿の壁に書き付けた歌は、「」には、しみじみすることだと人は申し上げたことだった。

- ①その人 ②その場 ③その時 ④その割

3 折節の移り変はるこそ、ものごとにあはれなれ。（徒然草）

（訳）「」が移り変わる様子は、何事につけても趣深く感じる。

- ①年月 ②時代 ③季節 ④世代

4 夕べの露のしげきも涙を催すつまなるべし。（今鏡）

（訳）夕べの露が多いのも涙を誘う「」であるにちがいない。

- ①きっかけ ②意味 ③そぶり ④背景

5 はやう御髪おろし給うてき。（大和物語）

（訳）（女の人は）「」出家なさってしまった。

- ①先日 ②なぜか ③すでに ④そのまま

6 （遊女ハ）人の召しに従うてこそ参れ。左右なう推参するやうやある。（平家物語）

（訳）遊女は人の招きによって参るものだ。ためらわず押しかける「」があるか。

- ①場所 ②機会 ③こと ④わけ

7 こころなき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢の秋の夕暮れ（新古今和歌集）

（訳）「」がない私の身にも、しみじみとした情趣が自然と感じられることだなあ。鳴が飛び立つ沢辺の秋の夕暮れであることよ。

- ①人を愛する心 ②情趣を解する心 ③旅を楽しむ心 ④仏を信じる心

8 この獅子の立ちやう、いとめづらし。深きゆゑあらん。（徒然草）

（訳）この（社の）獅子の立ち方は、実に珍しい。深い「」があるのだろう。

- ①関係 ②理由 ③信仰 ④情趣

「B」次の文の（訳）の「」に入る語句を答えよ。

9 小松の帝の御母、この大臣の御母、はらからにおはします。（大鏡）

（訳）小松の帝の母上は、この大臣の母上と、「」でいらっしやる。

- 9 「」

10 世の中の例として、思ふをば思ひ、思はぬをば思はぬものを、この人は、思ふをも、思はぬをも、けぢめ見せぬ心なむありける。（伊勢物語）

（訳）世の中の例として、好きな人を愛し、好きではない人は愛さないものなのに、この人は、好きな人も、好きではない人も、「」を見せない心があった。

- 10 「」

11 曇りたる空を、つくづくとながめ暮らしたるは、いみじうこそあはれなれ。（枕草子）

（訳）（梅雨のころ）曇っている空を、「」もの思いに沈んで眺め過しているのは、とてもしみじみしたものである。

- 11 「」

12 鎌倉にてよくよくこの川の御沙汰は候ひしぞかし。（平家物語）

（訳）鎌倉で十分この川（＝宇治川）に関する「」はありましたことだよ。

- 12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P268～P279

- 1 (②)
- 2 (③)
- 3 (③)
- 4 (①)
- 5 (③)
- 6 (③)
- 7 (②)
- 8 (②)
- 9 (姉妹)
- 10 (区別)
- 11 (しんみりと)
- 12 (評議)